



民生委員・児童委員通信

しあわせ

HAPPY NETWORK

No.15 平成 24 年 9 月

発行 守山市民生委員児童委員協議会

事務局 守山市社会福祉協議会
住所 守山市下之郷三丁目2番5号
TEL 077-583-2923

総会・全員研修会開催

基本方針・重点目標を決議

守山市民生委員児童委員協議会総会を平成二十四年五月二十五日(金)に、市長・市議会議長・福祉事務所長・社会福祉協議会会長を来賓に迎え開催しました。

本年度は、「支援を必要とする地域住民の見守り、相談支援活動を着実に実践するとともに、住民の誰もが安心して生活できる地域福祉ネットワークづくりを推進する。」ことを基本方針に据え、次の四項目を特に「重点目標」として位置づけ取り組んでまいります。



- ① 地域に即した学区民児協の活動強化
 - ② 児童委員・主任児童委員の活動推進
 - ③ 守山市民生委員児童委員協議会活動の拡充
 - ④ 委員の資質向上
- 以上を住民の皆様と共に、福祉の向上に寄与していきます。

総会終了後に全員研修会を実施

「滋賀いのちの電話の取り組みについて」と題して、同事務局長三上房枝氏より講演を受けました。自殺予防という視点から、県内における現状把握をし、次の「自殺予防対策の三つの基本認識」を確認しました。

- ① 自殺は追い込まれた末の死である。病気、アルコール依存等全てに原因がある。
- ② 自殺は防ぐことができる。周囲の人の気づき、気持ちの理解で対処が可能。
- ③ 自殺を考えている人は悩みを抱えながらもサインを発している。死についての具体的な話をしだすと危険信号。

県内では平成十五年の三三〇人が近年の最多で、目立って減少していないとのこと。いのちの電話では予防に尽力しています。相談員個々の自分についての「生きる」という観念が相談者に反映されます。自分が「いのち・生きること」について普段どの様に思っているのか、逆に投げかけられているのだ、という思いで相手の感情をそのまま受け入れ、その立場を理解することが予防につながる、という真摯な講演内容でした。我々民生委員としても特に「傾聴の大切さ」を理解する好機な研修で、今後の活動の大いなる糧となりました。(若杉記)

《県外研修報告》

「ともに生きる」

～牧ノ原やまばと学園を見学して～



特別養護老人ホームグレイス

去る6月27日から28日の両日、市民児協の県外研修会を静岡県牧之原市の社会福祉法人牧ノ原やまばと学園にて開催しました。

同学園の31施設のうち、障がい者支援施設やまばと希望寮、特別養護老人ホームグレイス、作業就労支援施設ワークセンターさくらを3班に分かれ見学、その後牧之原公民館で同法人理事長長沢道子先生から講話を拝聴しました。

1970年に最重度の知的障がい児のためのやまばと学園を創設以来42年の歴史の中、子どもから障がい者、高齢者等の福祉施設を増設されています。今後の目標として「地域全体がいかなる人も排除せず共に助け合う共同体でありたい。」と結ばれました。

理事長の強い信念と熱意をしっかりと職員の皆様が受け継がれ、そして何よりも地域との連携が密であると感じました。

家族だけでは支えきれない状況下で、常に地域の中で一人ひとりが互に向き合い声をかけあう共助の精神を再確認しました。(橋井記)

自殺予防 滋賀いのちの電話

相談電話

TEL.077-553-7387

毎週金・土・日 10:00~22:00



滋賀いのちの電話 事務局長 三上房枝氏

声

福祉活動の担い手として

守山市民生委員児童委員協議会
会長 中條 忠文

滋賀県民生委員児童委員協議会連合会は、昭和三十七年八月に設立され、ことし九月に五十周年を迎えます。守山市民生委員児童委員の皆様方には、長年に亘り地域福祉の増進に、日々活動に努められていることに対して、心から感謝を申しあげます。

依然として続く不況による雇用不安や貧困問題、また子どもや高齢者に対する虐待など、様々な暮らしの課題が顕在化しており、地域福祉を担う人や関係機関等が、より連携を深め、地域の実情を把握し取り組みを展開していく必要があります。

一方、民生委員児童委員の活動は、平成十八年の実績からみて、三倍強になり増加の一途をたどっています。民生委員児童委員や、福祉協力員など福祉に関わる人の人材確保が必要となっています。

守山市民生委員協議会は、第二次守山市民生委員協議会活動計画の二年目を迎え、学区社協・自治会と連携を深め、福祉の現状の把握や課題に対して目指すべき方向性の場として、自治会の安心ネットワークづくり、「健康福祉部の設置」を推奨しております。

いま、共助によるまちづくり、地域の支え合い機能の充実が求められています。

その中心となって活動していただくのが民生委員児童委員の皆様であろうと考えています。

今後とも、地域の福祉活動に、尚一層のご尽力をお願いいたします。



部会活動 — 第三部会 — (障害児・者福祉部会)の活動紹介

市外研修・わたむきの里作業所訪問

わたむきの里は、2001年に日野町大字河原に創設され、日野町に唯一の障がい者就労施設として行政と密接な連携を取りながら運営、様々な障がいをもつ方を受け入れています。

現在100名定員の大きな障がい者就労事業所に成長を遂げ、常時70～80人の職員で運営されています。

取り組む作業は大きく分けて2つあり、近隣市町の企業の下請けと自主製品の製造販売です。作業内容は多様で約100名の利用者のニーズに合わせて対応できるようになっています。例えば、外出を通して様々な経験を得る機会を重視している班や、質・量共に高い水準を維持する班もあり、企業へのグループ就労をすすめる班もあります。

それぞれの中で一人ひとりの障がいやペースを配慮しながらさらにグループを細分化しています。

またエコドームと呼ばれる建物に町民の方が随時廃品を運び込み古着、新聞紙、アルミ缶他労働力を生み出すリサイクル事業に地域の方々と共に取り組んでおられていることに大変感心しました。

また障がい児の学童保育所として「放課後クラブ友だち」を設け、そこで育った子どもたちは、そのまま作業所に受け入れられ、生涯にわたって成長をサポートされる利点があります。

施設見学の後、酒井施設長へ部会員より活発な質問があり、短い時間ではありましたが、部会員一同有意義な研修となりました。

今回の研修を今後の活動に活かしていけるよう皆様と共に努力したいと思います。(間宮記)

学区だより

小津学区の児童公園の安全一斉点検を実施しました

小津学区



小津学区には23か所の児童公園がありますが、その規模や遊具の種類も経過年数もバラバラで、中には子どもが遊ぶには危険なものもあるという声が出ていました。

各自治会で定期的な点検はされていますが、今回は一斉に同じ視点で安全点検をしようと、「小津学区安全を守る連絡会」のメンバーである民生児童委員14名が5月12日(民生委員・児童委員の日)に3班に分かれて23か所を回りました。

その結果、「老朽化で使用が危険」な遊具や「危険で使用禁止中」の遊具のある公園がいくつかあり、小修理や、補修の必要な遊具のある公園が多くみられ、周囲の木の枝や園内の雑草が繁茂し枝打ちや除草が必要な公園がありました。

今後この結果を基にして、学区の「安全を守る連絡会」や「各自治会」等で子どもが安心して遊べる公園にする取り組みをすすめていくこととなります。(※詳細な報告書が必要な方は小津公民館へ連絡ください。)(畠中記)

活動日誌

河西学区

オレンジのジャンパーで声かけ運動

河西学区民生委員児童委員協議会は、今年から全委員がお揃いの虐待防止オレンジジャンパーを着て活動しています。

5月には中学生の登校時に声かけ運動、7月には市内一斉の「心と心をつなぐあいさつ運動」を行いました。

ひときわ目立ったオレンジ色に、子ども達から熱い視線を受け、一段と明るく大きな声であいさつを交わしました。

(島田記)



速野学区

速野学区民児協の児童委員活動

児童虐待から非行さらには貧困に起因する問題まで、児童を取り巻く問題が毎日のように報道されています。

速野学区民児協では、守山市の委託を受けての赤ちゃん訪問の際、男性委員には主任児童委員(女性)が同行してお母さんと話しやすいよう努めています。児童委員活動も、民生委員活動と同様に、地域と専門機関との橋渡しを役割としていますが、児童に関する事柄は他の事柄以上に個人情報の保護や当事者との接触に繊細な注意と知識が必要とされます。そこで、速野学区民児協では児童に関する情報を全て主任児童委員に集め、対外的な窓口を一本化しています。つまり、児童に関する問題は学区民児協という組織体として取り組んでいます。そこで、主任児童委員は市の子ども家庭相談課をはじめ様々な専門機関や学区内の教育機関とも日常的に接触し、窓口としての役割を円滑に果たせるよう努めています。

(斎藤記)

小津学区「優良民児協表彰」受賞

小津学区民児協は、平成24年度県民児協連総会において「優良民生委員児童委員協議会表彰」を受賞されました。同民児協では従来の活動を大切にしながら、特に最近では子どもの安全を守る活動に力を入れておられます。今後も地域住民のみなさんと共に福祉を支えてくださいます。(事務局)



事務局職員紹介

このたび、平成24年4月より市民児協の事務局を担当させていただいております、宮西と寺田です。

今後も皆様と共によりよい地域福祉のため、努力して参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



宮西

寺田

編集後記

「ピーンポーン」、おばあさんいるかな、返事がないなあ。トイレかな。「ピーンポーン」、チャイムがきこえないのかな。裏側へ回ってみようかな。玄関の花にしばらく目を向ける。この時間が、民生委員であることを実感する時である。(水野記)

いろいろの研修から、人のふれあいの楽しさ、嬉しさ、難しさを学んでいます。訪問時に、「民生委員さんは元気がいいので、こちらも元気もらうわ」と言っていたたくと幸せです。これからも出会いを大切にしたいと思っています。(石田富記)